学都屋台食談

第7回 金沢医科大学 学長 神田 享勉 氏

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、講師と学生が語り合う「学都屋台食談」を11月15日から11月25日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催しました。2006年から今年で14年目を迎えた食談で、講師の方々が語ったメッセージを紹介します。

「利他」に努めれば、他人も自分も幸せに

学生が思索にふけるには適した風土と環境

私は群馬県の出身です。18歳のときに金沢医科大学の開学と学生募集の新聞広告が目に入り、これがきっかけで、現在、学長を務める当大学に入学しました。卒業後は出身地に戻って、群馬大学医学部の医局に勤めていましたが、母校から声をかけていただき、2001年に教員・医師としてこちらに舞い戻った格好です。

私が過ごしていた関東と北陸の大きな違いは、冬の雪です。この中に県外出身者がお二人いますが、当地での初めての冬には、おそらく面食らったことでしょう。しかし、寒さと雪に閉ざされることは、学究の徒である皆さんにとっては、いい点もあります。勉学への集中はもちろん、静かな環境の中で存分に思索にふけることができます。

金沢、石川は、芸術や哲学の分野で活躍する人を数多く輩出している土地柄です。そうした先達にならって、思索や創意を凝らす時間に充ててみるのもいいかもしれません。

多くの協力をすれば、多くの助けを得られる

金沢、石川は過去に戦災や大きな天変地異の被害に遭っておらず、人柄もマイルドな気質の方が多いように感じます。ただ、武家社会だった名残もあるのでしょう。外から来た人間が溶け込むには、少し時間がかかります。

皆さんは、Altruism-利他主義という言葉をご存じでしょうか。「利他」というのは、分かりやすく言えば、他人の助けになることをする、心掛けるという意味合いです。当地に限らず、他の土地に新たに住む場合や、就職して会社に入った場合でも、利他に努めれば、早く溶け込むことが可能です。仕事をしていく上でも、多くの協力をすれば、多くの助けを得られるようになります。

組織の中でリーダーシップを発揮する場合でも、そうしたことが他者の心をつかむポイントになるでしょう。

ちなみに、科学の世界では、利他に寿命を伸ばす効果があることが証明されています。皆さんにはこの先の人生の中で、利他を常に意識していただければと思います。他人を幸せにすれば、自分も幸せになれるのです。

人生のピークは常に目の前にある

今ほど「人生のピークをどこにもってくればいいのか」という質問をいただきました。結論から先に言えば、今この時、皆さんの目の前にあることがピークです。

人生ではジャグリング（お手玉）のように、手に取り、回していく日常的課題や仕事が一つ、また一つと増えていきます。ボールを落とさないよう、一生懸命集中する。そうして行き着いた先に、成功や成果があるのではないでしょうか。

人の可能性の幅は、実は誕生した時が最も広く、年齢を重ねるごとに、徐々に狭くなっていきます。半面、キャパシティや適応能力は、経験を積んでいくことで拡大します。皆さんは若く、選択の余地がまだたくさんあるので、かえって迷ったり悩んだりするのでしょうが、目の前のことを地道にやっていけばいいのです。それを他の誰かが見ていて、新しい可能性の口を開いてくれることもあります。私が18年前に金沢医科大学から声がかかり移ったのも、これと同じです。

先ほど述べた利他に努め、日々を懸命に生きていけば、人生の折れ線グラフは高い山を維持できると考えます。

参加学生　前列左から室田明星さん（石川県立大学4年）、笠原拓人さん（金沢大学2年）、後列左から、河本颯馬さん（金沢星稜大学2年）、細川博史さん（金沢医科大学4年）、角野舜一さん（北陸大学5年）

講師
金沢医科大学
学長
神田 享勉 氏

かんだ・つぎやす

1953年、群馬県前橋市出身。金沢医科大学医学部卒業。アメリカ合衆国ノースカロライナ州立大学留学、群馬大学医学部助教授などを経て、2001年に金沢医科大学総合診療科特任教授、2008年に地域医療学部門教授に就任。学長補佐、氷見市民病院副院長などを歴任し、2016年9月より現職。

企画／㈱アドマック　編集／㈱都市環境マネジメント研究所

金沢医科大学
医学部・看護学部